

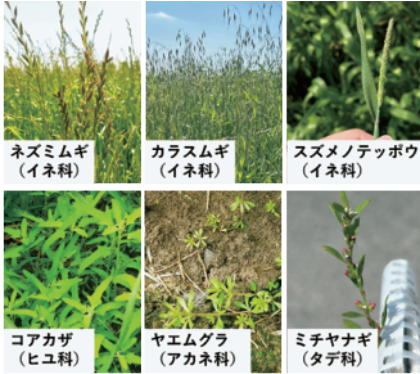


熊谷市の小麦栽培における雑草対策

1 前年の小麦作での雑草発生状況

熊谷市の令和7年産の小麦栽培では冬季乾燥が顕著となり、特に11月下旬以降の降は種で水分不足による出芽の遅れやムラが多発しました。早春になっても条間の地面が見えるほど小麦の繁茂量が少なかったため、土壌処理除草剤の効果が切れてくる2月中下旬以降の降雨で雑草が多発しました。

多発生種はカラスミギ、ネズミミギ、スズメノテッポウ、コアカザ、ヤエムグラ、ミチヤナギ、スカシタゴボウ、カラスノエンドウなどです。



2 近年の傾向から考える対策

問題雑草

	8月	9月	10月	11月 (土壌処理剤)	12月	1月	2月 (土壌処理剤) (生育期再処理)	3月 (茎葉処理剤)
カラスミギ ネズミミギ スズメノテッポウ		石灰窒素50kg/10a 施用後耕うん (もしくは水稻栽培)		シナジオ			トレファノサイド	ハーモニー (効果は限定的)
カラスノエンドウ スカシタゴボウ				リベレーター				アクチノール またはMCPソーダ塩
ヤエムグラ ミチヤナギ/ホトケノザ				ムギレンジャー			トレファノサイド	エコバート
シロザ コアカザ				クリアター			トレファノサイド	ハーモニー またはMCPソーダ塩
ヤグルマギク ナズナ				ダイロン				バサグラン

上記に問題雑草別のお勧め防除体系を示しました。大規模経営ほど除草失敗後の軌道修正が困難です。発生種に応じた適切な剤選択を心がけましょう。

なお、茎葉処理剤のMCPソーダ塩は散布時期次第では小麦の生育を抑制するため、適切な時期(茎立期23~17日前頃)での散布が必要です。

発生前や初期の雑草に効くトレファノサイドは、2~3月頃にも散布できる土壌処理剤です。春になっても小麦の繁茂が少ない場合は特に散布をお勧めします。小麦栽培終盤に発生するヒエにも効果が期待できるため、水稻のヒエ対策にも有効です。

水稻非栽培ほ場では、9月頃に石灰窒素を10a当たり50kg程度散布して耕うんすると、雑草種子の休眠覚醒効果があり、雑草が一斉に発芽してくるため、1か月ほど後に耕うんで除草すると雑草発生をかなり減らせます。この場合、基肥窒素は省略できます。

雑草が多いほ場では11月上旬頃までは種を早めると春の繁

茂量が多く、雑草防除の観点からは有利です。

3 小麦の除草対策にナタネ栽培

小麦自体もイネ科であり、イネ科雑草を全て枯殺する除草剤は使えません。特に、湛水できない畑ではカラスミギやネズミミギ等が蔓延しがちです。

ナタネは、10月中旬は種で、汎用コンバインで6月下旬頃収穫できます。単独での収益性は小麦に劣りますが、アブラナ科であるため2~3月頃にナブ乳剤やポルトフロアブルといったほとんどのイネ科植物を枯殺する除草剤が使用できるため、イネ科雑草多発ほ場でナタネを栽培すれば、次作以降の小麦栽培を助ける効果があります。

種子の調達については農協まで、出荷先については、米澤製油(☎048-526-1211)までお問い合わせください。

大里農林振興センター

☎048-526-2210 農業支援部

★今月のあなたの運勢★ 1月 乙女座 8/23~9/22

☆モナ・カサンドラ

【全体運】 勢いのある好調運。実力をアピールすれば念願がかないます。すぐには諦めず強気。華やかな場所にツキあり
【健康運】 良好です。体を動かしてパワーアップ! 【幸運の食べ物】 長ネギ